

おおさかの川

ふちんかん

江戸の八百八町に対して、大坂は八百八橋と言われる。それだけ江戸時代の大坂には橋が多かったということだが、それは同時に川も多かったということになる。

その川のほとんどが運河である堀川である。豊臣秀吉が大坂城を築城以降、湿地であった上町台地西側を町屋整備し、さらに水運の効率を高めるため、堀川の開削が盛んに行われた。

同時に商人が利便性を高めるため私財を投じて橋を架けた。その結果が八百八橋（実際は百余りだったらしいが）であり、明治以降、大阪は水都・水の都と呼ばれる由来となる。



「水都大阪」より <https://www.suito-osaka.jp/index.php>

今回の取材で訪れた水辺の歴史を辿ってみよう。なお右ページのイラストが、淀川・大和川の付け替え前後の姿や、大阪港埋め立てに伴う運河の形成がよく分かるので、ご参照あれ。中央部の大坂城の西側が上の模式図の堀川群とつながる。

① 大坂城外堀から淀屋橋へ

大坂城港は大坂城の北東、第二寝屋川の終端部にある。水上バスは出発後ほどなく寝屋川と合流する。寝屋川は、旧大和川の本体である。ほどなくして北からやってきた大川に合流する。この大川は旧淀川の本体である。つまり大和川の付け替えや新淀川が開削されるまでは、この場所は大阪と京都・奈良を結ぶ水運のメインストリートだったということである。

大川を下ると中之島で堂島川と土佐堀川に分かれる。水上バスは南の土佐堀川を進む。土佐堀川から南へは東横堀川が分かれる。この東横堀川が豊臣秀吉の命で初めて掘られた堀川であり、その先は西に進路を変え道頓堀川となる。



柏原市HP「大和川の歴史」から <http://www.city.kashiwara.osaka.jp/docs/2015072600070/>

② 安治川近辺

堂島川と土佐堀川が合流して安治川となる。その終端部右岸にあるユニバーサル・スタジオ・ジャパンがある。江戸時代に始まった新田開発で大阪港が埋め立てられてできた土地である。キャプテンラインは安治川の右岸と左岸をつなぐ。

③ 尻無川

海遊館西はとばを出発したサンタマリアは、いったん安治川を遡上しUターンして、大阪港へ出る。そして港大橋をくぐって尻無川終端部まで進む。この尻無川と東にある木津川が、江戸時代以降、道頓堀など多くの堀川の水を集めて大阪湾に注いでいた川である。

④ 道頓堀川

とんぼりクルーズは道頓堀川を東西に往復する。大阪らしい景色である。 (了)